

発表者氏名： 鳴海 麻衣子

所属学校： 小中学校

派遣職種： 日本語教師

派遣国： 中国

派遣先： 吉林省永吉県
朝鮮族第一中学校

タイトル： 壁新聞を通じた日中学校交流

キーワード： 朝鮮族・日本語学習・壁新聞・日本語コンクール・総合

発表要旨：

現地での活動 任地は中国の吉林省、農村部の小さな町の朝鮮族中学校で日本語教師として活動した。朝鮮族は中国の56民族のうちの一民族で、朝鮮半島が大干ばつするときや旧満州時代に移り住んだ人々である。生徒たちは3~4世代目にあたり、朝鮮語と中国語のバイリンガル。彼らにとって、文法や発音で朝鮮語と共通点が多い日本語は学びやすく就職に有利であること、家族親戚が韓国・日本へ働きに出ている人が多いため日本語学習の需要がある。中国の「中学校」は中高一貫校のことで全校生徒約1500人中、日本語選択の約700人の生徒に、会話や文化紹介の授業を行う。参加型の授業をこころがけ「受験対策」に偏りがちな詰め込み式の授業が多い中で授業方法や日本語の研修会を先生方と週1回行った。また大きな活動としては日本の以前の勤務先の中学校との壁新聞を通じた交流、近隣の朝鮮族中学校を招待して日本語コンクールなどの企画と実施を行った。その他、植林活動や他地域の学校や福祉施設訪問、「希望行程」という中国の慈善活動に参加するなど学校以外の活動も積極的に行った。

帰国後の還元 2008年の夏休み任地に戻った際に以前実施した壁新聞作成をお願いした。同年10月に中国から壁新聞や生徒が作った剪紙（切り絵）や手紙などが日本の学校に到着した。現勤務校の総合の時間では福祉・環境・地域・国際理解の4領域での調べ学習を行っているので学年の協力を得て



司会者指導

壁新聞作成とプレゼンコンクールを行った。その様子をDVDに焼き、日本語にルビをつけた壁新聞と生徒の中国の友達への質問とともに12月に送付。現地に二代目の日本語教師の隊員が10月末に到着したため連携しながら今後も交流を行っていく予定である。「その他」帰国後出前講座を新宿区新宿中学校で行った。また勤務先の学校に協力隊のOVが2名（小学校教師と体育の講師）がいるため、協力隊活動に関して理解が得られやすく小学部での簡単な中国紹介の授業など数回行っている。